

音楽芸能スタッフ科 企画制作コース
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

4 5 分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	PC知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	プロダクトデベロップメントⅡ	68	2	2
実習	デザインⅡ	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎Ⅱ	68	2	4
演習	スタッフワーク応用Ⅱ	68	2	4
演習	企画制作基礎Ⅱ	68	2	4
演習	企画制作応用Ⅱ	68	2	4
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	46

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～3回目	・就職面接対策 ・筆記対策
【前期】 4～7回目	・マナーの基本(第一印象、あいさつ、身だしなみ、態度、表情、姿勢)復習 ・敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、クッション言葉、間違えやすい敬語)復習
【前期】 8～10回目	・コミュニケーション(聞き方・話し方、接客の言葉遣い、お客さま心理の理解)
【前期】 11～13回目	・ビジネスマナー①(ビジネスマナーの意義、来客対応、訪問のマナー、電話対応)
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。接遇の基本、言葉遣いなどに関わる知識や技能を問う。
【後期】 18～20回目	・ビジネスマナー②(ビジネス文書、ビジネスメール、指示の受け方・報告のしかた)
【後期】 21～24回目	・日本のしきたり①(冠婚葬祭のマナー、年中行事、贈り物のマナー)
【後期】 25～27回目	・日本のしきたり②(食事のマナー「和食・洋食・中華」、お酒のマナー)
【後期】 28～30回目	・社会人としての心構え(企業人としての必要要素、職場のルールとマナー、環境設備、ストレス対策)
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。オフィスワーク、日本のしきたりなどに関わる知識や技能を確認する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはこれから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽・芸能業界史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	ドラマアシスタントプロデューサー、音楽系マネージャー歴3年、俳優系マネージャー歴6年、映画アシスタントプロデューサー、タレントマネジメント歴21年経験。その経験を活かし、タレント・アーティストのスケジュール管理方法や著作権などのマネージャーに必要な基礎知識の講義を行う。				
授業概要	<p>①テレビ史と音楽で近代エンタテインメントの流れを学習する。</p> <p>②歌謡曲の流行とアイドル業界の流れを学習する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エンタテインメント業界=コンテンツ業界の理解。 ・音楽・放送・映画業界の理解。 ・その他、ゲームやアニメ業界の理解。 ・コンテンツ業界の中において、音楽芸能業界の歴史を知る事で、将来的な流行り廃りを養える目を身につける。 ・音楽・エンタテインメントの世界において過去に起こったブームや流行を知り、分析し、これからのトレンドを予測する。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(戦前～)音楽・メディア
【前期】 4～7回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1953～)番組・音楽・CM等。
【前期】 8～10回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1960～)番組・音楽・CM等。
【前期】 11～13回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1970～)番組・音楽・CM等。
【前期】 14～17回目	試験対策 ■前期試験:筆記試験を実施し、メディアと音楽の理解及び流行に関して理解を問う。 前期講義内容まとめ
【後期】 18～20回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1980～)番組・音楽・CM等。
【後期】 21～24回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1985～)番組・音楽・CM等。
【後期】 25～27回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(1990～)番組・音楽・CM等。
【後期】 28～30回目	放送①TV(エンタメ)の歴史(2000～)番組・音楽・CM等。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験を実施し、音楽業界史と流行に関して理解を問う。 二年次講義内容まとめ
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	コンテンツ業界の内容や歴史・流行を知る事で、エンタテインメント業界での様々な人たちとの交流がより楽しく、より深くなることでしょう。
備考	適宜プリントおよびPDFを配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	舞台知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自身のバンドで上京、翌年にはビクターエンタテインメントよりメジャーデビューを果たす。シングル・マキシシングル・アルバム等、計7枚を発表。テレビ・ラジオを始め、各種イベント等多数出演。また、近年では福岡ナンバーショット、中洲ジャズやサツマニアンヘスなどにも舞台監督や現地楽器スタッフとして従事。 上記の経験を活かしローディーにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要	<p>①芸能の発生から芝居小屋の広がり、近代の公会堂、劇場、ホールへと歴史的に変化していった、日本の劇場、ホールについての学習する。</p> <p>②世界の劇場建築の変遷について、ギリシャからローマ時代、オペラ、クラシック音楽などの上演に適した専門劇場の形態を学習する。</p>				
到達目標	<p>・卒業後、劇場等演出空間での創造性溢れる自由な表現活動に携わるスタッフに求められるのは、高度な創造と制作であり、さらには円滑で、より安全な公演実施には、音響、照明などの分野を超えた共通認識が必要とされ、公演に携わる者のコミュニケーションのために、必要不可欠な知識を習得が求められる。制作スタッフは、専門教科内で身につける知識とは別に、劇場が歴史的に、また洋の東西を超えて、文化創成、文化発信、文化体感の空間であることを認識することで、単なる技術者にとどまることなく、文化の一翼を担う、インテリジェンスを身につけた存在を到達目標とする。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	●社会の中での芸能とホールの存在意義。
【前期】 4～7回目	●日本の公立劇場とホール。
【前期】 8～10回目	●欧州のホールの歴史、構造と文化的背景。
【前期】 11～13回目	●ホール、劇場の性能と機能。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	●文化芸術政策と劇場ホール。
【後期】 21～24回目	●実演芸術の制作。
【後期】 25～27回目	●劇場・音楽堂 その設備と運用の実際。
【後期】 28～30回目	●総括。
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	卒業後の進路であるイベント制作会社、音響会社、照明会社、ローディ会社、プロダクション等の現場に臨むに当たり、これからエンターテインメント就労する中では、習得する機会のない基礎的な舞台全般知識の習得を目指します。
備考	舞台技術の共通基礎

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>パソコンは、生活を便利にするツールとして今日、あらゆるシーンで利用されている。スマートフォン・タブレット全盛の時代だが、ビジネスの世界では業界問わずパソコンを使いこなせることが必須項目である。この講義では、音楽業界だけでなく、現在のビジネスで標準的に利用されているMicrosoft Office(Word/Excel/PowerPoint)ソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・Word(文書作成)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)といったそれぞれの特性を理解し、与えられた文書と同様の文書を作成できることを目標とする。</p> <p>・就職後、ビジネス文書はこれらのソフトウェアのいずれかで作成されていることがほとんどである。したがって、この講義をマスターすることは組織から必要とされる人材の基本的な職務遂行能力の獲得に直結している。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Excelレイアウトの応用。(Excel方眼紙、枠線の練習)
【前期】 4～7回目	Excel関数の紹介。(SUM, MAX, MIN, AVERAGE, IF, IFERROR)
【前期】 8～10回目	Excel関数の紹介(VLOOKUP)、マクロの基本、Wordの復習。
【前期】 11～13回目	Wordのレイアウト要素確認。(用紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【前期】 14～17回目	■前期試験: Officeソフトウェアの機能や部位の意味・名称に関するペーパーテストおよび与えられた指示通りのExcel/Wordファイルが作成できるかどうかを問う。
【後期】 18～20回目	Wordのレイアウト要素確認。(表、画像の埋め込み、紙サイズ、ワードアート、テキストボックスの利用など)
【後期】 21～24回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方①、ストーリー作成①、サンプルプレゼンテーション①(発表)
【後期】 25～27回目	PowerPointプレゼンテーションの考え方②、ストーリー作成②、サンプルプレゼンテーション②(発表)
【後期】 28～30回目	Excel/Word/PowerPointの適切な用途について復習。
【後期】 31～34回目	■後期試験: 実技試験のみ (Word/Excel/PowerPoint) 用途に応じて、これらOfficeソフトウェアを適切に選択し、学んだ技術を駆使しつつ、創造力をいかして課題を解決する文書ファイルが作成できるかを問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Word/Excel/PowerPointは、業界を問わず世界中のビジネスで標準的に使われているOfficeソフトウェア群です。この講義を受講することで、仕事をする上で欠かせないパソコンによる文書作成ノウハウを身につけることができます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	イベント制作知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	(株)Applause代表、米国広報プログラムによりニューヨークにおいて'92年プロデュース研修。東京や福岡でコンサート、演劇やファッションショーなどの企画、制作やプロデュースを数多く手掛ける。大手プロダクションにおいて福岡のダンスヴォーカルユニット、モデルや俳優の育成からマネージメントまで幅広く活動中。 上記の経験を活かしイベント制作全般における講義を行う。				
授業概要					
<p>①20代を中心とした世代の関心事(食文化、ファッション、恋愛など)に新風を起こすほどの魅力あるイベントを企画。 ②基礎として、日本の文化、歴史、観光、人文を世界に発信することを目標に、若者世代の音楽を軸に、日本のお家芸であるサブカルチャーを世界の共通言語と位置づけ、言葉を越えたイベントを制作～実施を企業、自治体への提案書を作成。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の経験をもとに、新企画を起こすなかで、より高度で新たな視点で情報を探索し、さらに内容を深める工程で、必要な知識を習得。 ・身につけた発想力と経験を生かした視点による、企画を周囲の制作陣と共有し、発信する力を身につけることが到達目標。 ・ネットによる最新情報収集と共に、過去の文献をひもとき、経験者、有識者の文献を読み解き、専門知識を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	企画書、稟議書、プレゼンテーション概要学習。
【前期】 4～7回目	個々にプランの方向性を模索。
【前期】 8～10回目	実際に企画書を作成。
【前期】 11～13回目	実際に企画書を修正。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	効果的な宣伝方法について。
【後期】 21～24回目	アーティスト、関係各所との交渉について。
【後期】 25～27回目	イベントにおける予算の考え方について。
【後期】 28～30回目	実際に予算計画書の作成・修正。
【後期】 31～34回目	■後期試験:プレゼンテーションによる実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	知識、情報を自らの方法と手段で会得し、クラス全員参加による相互の意見交換と収集した情報から他者と自らの発想を融合し、より高度な創造力を身につける。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	プロダクトデベロップメントⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	プロダクトデベロップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	フリーランスとして10年以上に渡りデザイン事務所、Web制作会社や雑誌編集部において様々なデザインやマーケティングに関する業務に携わる。 上記の経験を活かし音楽業界におけるグッズの商品開発及びマーケティングに関する実技指導を行う。				
授業概要					
音楽フェスやアーティストのライブコンサートを動員数・必要スタッフ・協賛などの視点から分析し、イベント企画の目線とデザインの相互スキルを学ぶ。(イベントやアーティストのカラーによって適したデザインが出来るか)また実際のイベントに参加し、中小規模のイベント現場を体験することで、現実的な感覚を身につける。					
到達目標					
・動員数・必要スタッフ・協賛などの視点からイベントを分析出来るような「企画運営サイド」のスキルをしっかりと身につける。また、様々なデザインに触れることで感覚の幅を広げ、どんなデザインにも対応できるデザインスキルも習得する。また、総合的にイベント企画力・デザイン力を上げることで、より実践的な感覚を養って頂き、イラストレーター、フォトショップを用いて、色と文字の扱いを習得する。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	SNSの分析と活用。
【前期】 4～7回目	イラストレーターの実践的使用法。
【前期】 8～10回目	フォトショップにより人物のレタッチ。
【前期】 11～13回目	語彙力を高めて、キャッチコピーを作る。
【前期】 14～17回目	■前期試験:SNSについての筆記試験を実施。広報に必要な考え方と視点を理解できているかを問う。
【後期】 18～20回目	校外イベントの情報共有と、自分たちが出来ることを考える。
【後期】 21～24回目	[商品開発コンペ]・Tシャツデザインをしよう! プリント色単色指定を理解する。
【後期】 25～27回目	[クラス会報誌を作ろう] ・どんな内容を盛り込む? ・どんなデザインにする?
【後期】 28～30回目	[はさみっと企画] ・必要な人員・チラシの作成・アーティストのブッキング・具体的な協賛先の提案。
【後期】 31～34回目	総締め括り ■後期試験:2年間で学んだことに関して筆記試験を実施。理解度を総合的に判断する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	デザインを通じて、企画力などを総合的に身につけ、多角的な視覚と柔軟な行動力を身につける。また、外部実習を通じて、枠に捉われない発想力を育む。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	広告デザインⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	デザインⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	<p>絵画教室講師、3DCG映像制作会社勤務を経て、現在フリーランスのイラストレーターとして活動中。 大手食品メーカー店内イラストや冊子挿絵、様々なパンフレットデザイン等、幅広く制作。 作家として、ライブペイントや個展・グループ展も開催。その他、デザイン系専門学校講師兼任。</p>				
授業概要	<p>Adobe Illustrator、Photoshopの基本操作や応用方法を身につけ、DTPについて実習を行う。 Adobe Premiere Pro・After Effectsを使用し、学内イベントのLIVE映像の編集技術を身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・DTPに必要なPC技術を学ぶ。 ・フライヤーやグッズなど入稿作業を身に付ける。 ・色やフォントの効果を理解し、目的に沿ったデザイン表現が出来る。 ・作りたいものをそのまま形にすることが出来る。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	「名刺デザイン」規画サイズを元に、形から考える。自分らしさが出る名刺を意識する。
【前期】 4～7回目	「Premiere Pro 基本操作」シーケンスの設定・カット・不透明度・エフェクトの種類 等。
【前期】 8～10回目	「テロップ入れ」文字デザインから走り書きアニメーションまで。
【前期】 11～13回目	「モーショングラフィックス」Adobe After Effectsの基本操作と基本的な動きを制作。
【前期】 14～17回目	■前期試験:「アタック制作」 LIVE WEEKで使用すると想定し、15秒前後のアニメーションを制作。
【後期】 18～20回目	「XD 基本操作」図形の描画・テキスト入力 等。
【後期】 21～24回目	「サイトデザイン」学内アーティストをピックアップし、ワイヤーフレームから考える。
【後期】 25～27回目	「CDジャケットデザイン」架空のバンドや既存アーティストのジャンル違いを想定し制作。
【後期】 28～30回目	「映画ポスターパロディー」ロゴを再現し、写真の加工を行い、本家に近づける。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験「スポーツ新聞」 身近な出来事をスポーツ新聞風に仕上げる。アピアランスやスレッドテキスト等を効果的に使う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Adobe Illustrator・Photoshopは、フライヤー制作や写真の加工をベースに、アイコン・ヘッダーの作成から動画の素材等、幅広くデザインすることが出来ます。よって、どのような業界であってもAdobeソフトを扱えることは大変武器になります。 様々な制作物に取りかかる中で操作を覚えることはもちろん、デザインコンセプトまで説明出来るよう考えながら制作していきます。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	フェスのテクニカルコーディネーター、ステージマネージメントはじめ、アーティストのステージマネージメント、その他スポーツエンタテインメントの演出業務、ファッションショーの演出、ブライダル演出等、エンタテインメントを数多く手掛ける。上記の経験を活かしステージ制作/運営における仕込みからパラスまでの実技指導を行う。				
授業概要					
音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、タイムスケジュール作成、プロット回収、舞台監督、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、企画制作コースを中心に企画会議を行い、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する①(タイムスケジュール作成) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する②(プロット回収、各セクションとの連携) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 11～13回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する③(舞台監督、進行、撤収) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、企画制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、どのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する④(タイムスケジュール作成) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑤(プロット回収、各セクションとの連携) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 28～30回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑥(舞台監督、進行、撤収) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・パラスを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解 /コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、企画発案からイベント開催、撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	フェスのテクニカルコーディネーター、ステージマネージメントはじめ、アーティストのステージマネージメント、その他スポーツエンタテインメントの演出業務、ファッションショーの演出、ブライダル演出等、エンタテインメントを数多く手掛ける。上記の経験を活かしステージ制作/運営における仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要					
音響、照明、ローディー、イベント制作、のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、タイムスケジュール作成、プロット回収、舞台監督、進行、本番や撤収などのイベント制作スタッフとして必要な実技能力を養う。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。 ※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。 ・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、企画制作コースを中心に企画会議を行い、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する①(タイムスケジュール作成) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する②(プロット回収、各セクションとの連携) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 11～13回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する③(舞台監督、進行、撤収) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、企画制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、どのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する④(タイムスケジュール作成) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑤(プロット回収、各セクションとの連携) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 28～30回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する⑥(舞台監督、進行、撤収) 仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通して制作の役割を学ぶ。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、企画発案からイベント開催、撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	企画制作基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	フェスのテクニカルコーディネーター、ステージマネージメントはじめ、アーティストのステージマネージメント、その他スポーツエンタテインメントの演出業務、ファッションショーの演出、ブライダル演出等、エンタテインメントを数多く手掛ける。上記の経験を活かし企画制作の実践指導を行う。				
授業概要					
<p>①前期、後期でそれぞれ自主イベントを開催し、会場の選択、予約、準備、予算管理、ゲストブッキング、当日運営など、より実践的な内容を体験していき経験を積んでいく授業である。</p> <p>②前期では音楽イベント以外のイベントを実施し、後期では卒業制作で、それぞれ学校外の会場にて実践授業を行い、プロとしての意識、考えを持ってもらえるように、理解を深める。</p>					
到達目標					
<p>・1年次に学んできた知識を基に、実際に業務で必要となる事柄や、必要となる資料の作成に取り組み、社会で実践できるだけのスキルを身につけ、イベント業界における考え方を理解し、結果的にビジネスとして成立させる必要があること、またそのための収支の考え方を理解するとともに、実際に自らイベントの予算組み、決済までの流れや、ビジネスマナーを身に着ける所までの一貫して身に着ける。</p> <p>・取り組むイベントに対してその工程、必要となる制作業務を理解し、適切かつ臨機応変に、完結できるようにしていく。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	本年度授業概要説明、自主イベント開催概要条件決定と内容のディスカッション。
【前期】 4～7回目	会場候補の決定、下見の予約、内容のプレゼンテーション。
【前期】 8～10回目	予算割、許可などの申請有無の確認、ゲスト選定、会場下見。
【前期】 11～13回目	会場下見した上で、内容の調整、ゲストへのオファー、プロモーション活動。
【前期】 14～17回目	音楽イベント以外のイベント実施 ■前期試験:企画に必要な知識で前期学んだ内容の筆記試験を実施、理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期イベントの反省、後期イベントについてのディスカッション、ゲスト候補、各自担当割り。
【後期】 21～24回目	プロモーションプラン決定、内容プランニング、内容プレゼン、ゲスト候補決定、全体スケジュール決定。
【後期】 25～27回目	自主イベント予算書作成(校内用稟議書作成)、情報解禁含め、プロモーションプラン実施、準備など。
【後期】 28～30回目	当日タイムスケジュール、映像など制作確定、予算最終確認、集客見込み検討の上、最終プロモーション。
【後期】 31～34回目	卒業制作イベント実施 ■後期試験:イベント通じての2年間で学んだ企画に必要な知識の筆記試験を実施、理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/行動力/アイデア」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今期のイベント授業を成功できれば、企画制作会社の即戦力として社会に出ていけるはずですが、イベント企画の提案から予算組み、各所折衝、プロモーション活動、使用許可などの事務、予算管理、実施から報告書づくりまで、全体の流れを学び、イベントプロデューサー・ディレクターとしてのスキルを習得します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	企画制作Ⅱ 応用		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	企画制作応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	フェスのテクニカルコーディネーター、ステージマネージメントはじめ、アーティストのステージマネージメント、その他スポーツエンタテインメントの演出業務、ファッションショーの演出、プライダル演出等、エンタテインメントを数多く手掛ける。上記の経験を活かし企画制作の実践指導を行う。				
授業概要					
<p>①前期、後期でそれぞれ自主イベントを開催し、会場の選択、予約、準備、予算管理、ゲストブックイング、当日運営など、より実践的な内容を体験していき経験を積んでいく授業である。</p> <p>②前期では音楽イベント以外のイベントを実施し、後期では卒業制作で、それぞれ学校外の会場にて実践授業を行い、プロとしての意識、考えを持ってもらえるように、理解を深める。</p> <p>※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施</p>					
到達目標					
<p>・1年次に学んできた知識を基に、実際に業務で必要となる事柄や、必要となる資料の作成に取り組み、社会で実践できるだけのスキルを身につけ、イベント業界における考え方を理解し、結果的にビジネスとして成立させる必要があること、またそのための収支の考え方を理解するとともに、実際に自らイベントの予算組み、決済までの流れや、ビジネスマナーを身に着ける所までの一貫して身に着ける。</p> <p>・取り組むイベントに対してその工程、必要となる制作業務を理解し、適切かつ臨機応変に、完結できるようにしていく。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	本年度授業概要説明、自主イベント開催概要条件決定と内容のディスカッション。
【前期】 4～7回目	会場候補の決定、下見の予約、内容のプレゼンテーション。
【前期】 8～10回目	予算割、許可などの申請有無の確認、ゲスト選定、会場下見。
【前期】 11～13回目	会場下見した上で、内容の調整、ゲストへのオファー、プロモーション活動。
【前期】 14～17回目	音楽イベント以外のイベント実施 ■前期試験:企画に必要な知識で前期学んだ内容の筆記試験を実施、理解度を問う。
【後期】 18～20回目	前期イベントの反省、後期イベントについてのディスカッション、ゲスト候補、各自担当割り。
【後期】 21～24回目	プロモーションプラン決定、内容ブランニング、内容プレゼン、ゲスト候補決定、全体スケジュール決定。
【後期】 25～27回目	自主イベント予算書作成(校内用稟議書作成)、情報解禁含め、プロモーションプラン実施、準備など。
【後期】 28～30回目	当日タイムスケジュール、映像など制作確定、予算最終確認、集客見込み検討の上、最終プロモーション。
【後期】 31～34回目	卒業制作イベント実施 ■後期試験:イベント通じての2年間で学んだ企画に必要な知識の筆記試験を実施、理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/行動力/アイデア」の5項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	今期のイベント授業を成功できれば、企画制作会社の即戦力として社会に出ているはず。イベント企画の提案から予算組み、各所折衝、プロモーション活動、使用許可などの事務、予算管理、実施から報告書づくりまで、全体の流れを学び、イベントプロデューサー・ディレクターとしてのスキルを習得します。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ローディーコース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	著作物の定義や著作権の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。				
到達目標	音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権の権利の内容を理解する 著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成 & 提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リカーブラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。